

中学生野球における硬式と軟式の比較に関する一考察

吉浦 剛史 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 植田 実

キーワード：硬式野球、軟式野球、高校野球 (甲子園)

1. 緒言

中学生の野球環境は大きく 2 つに分けられる。中学校で行われている部活動による軟式野球と地域のクラブチームで行われている硬式野球である。クラブチーム (硬式) に所属する選手は学校の部活動で野球部には所属できない。そのため、中学生で野球をしようと考えている人はどちらかを選択しなければならない。そこで本研究では、選手の意識、コーチング環境、選手の現状を調査した。そして、高校野球 (甲子園) との関連性を含めて、硬式と軟式の中学生選手を比較し、その違いを明らかにすることを目的とした。

また本研究の結果を中学生野球、そして日本野球界の今後さらなる発展の一資料としてフィードバックすることも研究の目的とした。

2. 研究方法

方法：文献調査

アンケート調査

聞き取り調査

対象：(財)全日本リトルシニア協会

(財)日本少年野球連盟

NPO 法人全日本少年硬式野球連盟

上記 3 団体の中学生選手 143 名

中体連所属の奈良県中学校軟式野球選手

126 名 合計 269 名

3. 結果

硬式選手は高校へ進学しても硬式野球を継続したいと全員が答えた。また硬式選手は普段の練習から 97.3% が高校野球を意識しているが軟式は 56.3% であった。

1 チームに対する指導者の数は硬式は 7.67 人であり、軟式は 2.06 人であった。また軟式

には野球経験のない指導者も存在した。こうした野球経験のない指導者が存在する中で軟式選手の 79% が学校に硬式野球部があれば入部したいと考えている。そのため軟式の部員数は減少傾向で硬式は増加傾向になっていると推測できる。

成長段階の身体への負担で、慢性的な怪我は軟式が一人あたり 0.59 回で硬式が 0.85 回で硬式がわずかに多い傾向がみられた。また自己申告の平均身長、平均体重において硬式が軟式を上回り、体格の違いが現れたことから、トレーニング量や負荷の違いが影響している可能性がある。

4. まとめ

これらの結果から野球界発展のために硬式と軟式をどのようにとらえるかが重要である。すなわち硬式は競技性を重要視しており、軟式は普及や生涯スポーツとしての役割を担っていると考える。そのことから連盟組織も分ける必要があると考える。

今後の課題として対象の幅を広げデータの信憑性を高めていく必要がある。また指導者の考えを調査することでより違いが明らかになる。

参考文献

- 1) 軍司貞則 高校野球「裏」ビジネス ちくま新書 (2008) P72~P74
- 2) 小林信也 高校野球が危ない！ 株式会社草思社 (2007), pp. 23~26.
- 3) 小野平「ホント(常識)のウソ」の野球論 株式会社MCプレス (2005), pp. 16~19.